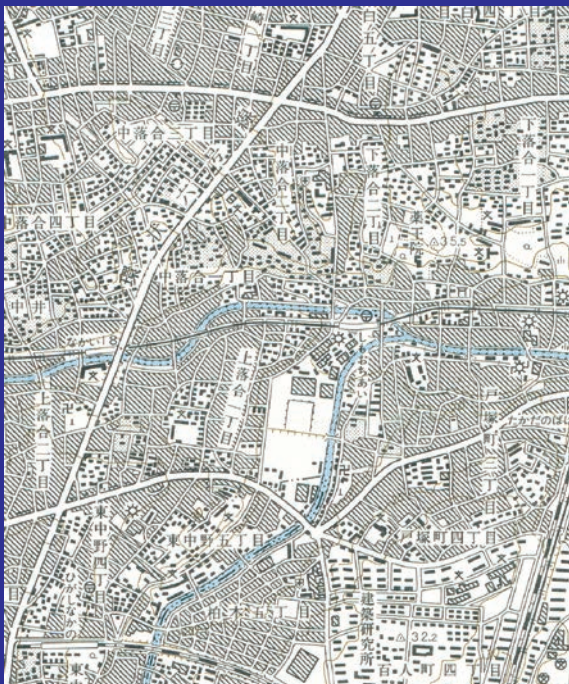
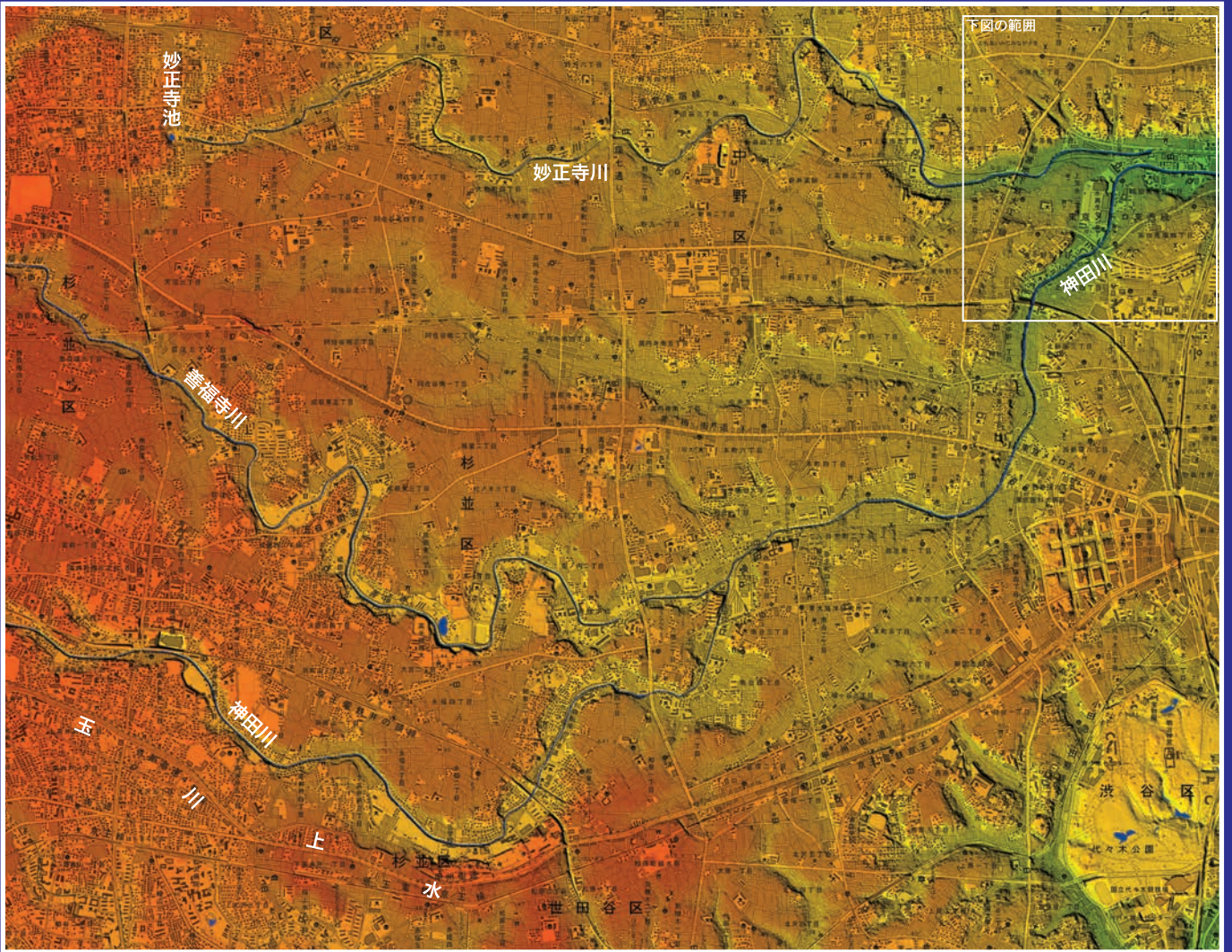


2. 武蔵野台地を蛇行する河川 1:50,000に縮小



1:25,000地形図「東京西部」昭和41年改測

台地に刻まれた谷

目立つ3本の河川は、北から妙正寺川、善福寺池が水源の善福寺川、井の頭池を水源とする神田川です。水源となっている池は、厚い火山灰の堆積の下にある砂礫層から地下水が湧き出ているものです。都市化が進むにつれて、地表がコンクリートなどで覆われていたため、集中豪雨時には周辺より低い川や谷沿いに水が一気に集中する都市型水害が起こることがあります。妙正寺川、善福寺川流域では、2005年9月4日の集中豪雨で水害が発生しています。かつて、妙正寺川は下落合で神田川と合流していましたが（左図）、合流部で頻繁に水が溢れたため、より下流の明治通り近くで合流するよう暗渠(※)での流路変更（高田馬場分水路、1968～1982施工）が行われました。妙正寺川が図の東端近くで途切れているのはそのためです。

南の台地上には、江戸の上水や灌漑のために掘られた玉川上水（1653年完成）が流れ、1965年まで図東端の新宿にあった淀橋浄水場に給水していました。ほぼ平行して江戸城の半蔵門から甲府に至る旧甲州街道も通っています。玉川上水は台地の高いところを通るように工夫されており、野火止用水、千川上水など、たくさんの分水が開削されました。

※暗渠：地中に埋設された河川や水路のことです。